

朴 先哲 駐名古屋韓国総領事に聞く



在職中に名古屋との姉妹都市を実現したい 韓日関係の困難な時期こそチャンスです

駐名古屋韓国総領事館の新しいトップに朴先哲さんが就任した。スイスや南アフリカ共和国大使館のほか日本では大阪、神戸の総領事館も歴任したベテラン外交官。日本語も流暢で、日韓関係が最悪と言われる時期での就任に「こんな時期こそチャンスです」と頼もしい抱負を披露する。（聞き手は、中部財界フォーラム社の塚本隆社長）

——たいへんな時期に着任されましたが、新総領事としての抱負をお聞かせください。

朴 いろんな方にご心配いただいています。私は、こんな時期こそチャンスだと考えています。悪い時期にこそいろんなチャンスがある。日本の方からさまざまなご協力を得られるのではないかと考えてます。かえって気持ちを楽にして取り組みますよ。

——確かに「つらい時こそ真の友が分かる」ということわざもありますね。

朴 10月に正式に赴任しました。就任にあたり3つの重点に取り組もうと考えました。日本で仕事をする外交官として第一に韓日関係の改善、これが最優先課題です。

次に、在日同胞の活動を支援することです。

在日同胞は、在日韓国人であると同時に地域社会の住人です。地域に貢献する皆さんを支援することにも取り組んで参ります。

三つ目は、こんな難しい時期だからこそ、自治体や民間団体同士の交流をより活発化することです。この3つを重点に仕事を進めたいと考えています。

——マスコミは戦後最悪の日韓関係だと報じています。どうしてここまでこじれてしまったのでしょうか。両国のトップ共に、振上げたこぶしを下すところがないような状況です。

朴 いろんなことが複合的に絡まってこんなことになったと思います。いろんな見方があり、一概に言えないと思います。国の指導者はそれなりに大きな目標をもって仕事をされていると

と思いますが、解決の出口は少し見えてきたのではないかと考えています。

わたくし個人的には、「本来の外交」が実行されればと思います。外交とはやりとりであり、相手の主張を互いに聞いて、少しずつ妥協し、お互いに損にならないようにすること。それが外交だと思うのです。この本来の意味を考えれば糸口は見えてくると信じています。

——われわれ庶民レベルでも、政治家ならば妥協する道筋を探ってほしいと思っています。

朴 長く続いてきた交流が中断したこともありました。それは、日本でも韓国でも同じように起こっています。こちらから「行く」といっても、相手側は「今はちょっと遠慮してほしい」といったような事態が起きています。日本でも韓国でも付度ということがありますね。そういうことは避けたいですね。ですから、自治体や学校、民間団体などの皆さんに出会うことがあれば、これまで続けていた交流の絆を保ち続けるよう訴えたいと思っています。総領事館としては韓日双方の事情を理解できる立場にありますから、その架け橋になるべきだと考えています。そんな状況下でも実は、最近も日韓のスポーツ交流・成人交歓交流（※注1）という取り組みが行われ、韓国から総勢176人が来日しました。9月には岐阜県でもサッカー競技が開かれたのですよ。

——それこそ、民間同士の交流ですね。こうした草の根の関係を途絶えることなく維持、発展させたいですね。自治体同士でも可能性はいっぱいあります。

朴 私の在任中になんとか実現したい夢があります。自治体同士の姉妹都市とか友好都市と

いった関係づくりです。愛知県は京畿道と友好交流と相互協力に関する覚書を2015年11月に結んでさまざまな交流活動をしています。が、名古屋市と韓国の都市とはどこも結ばれていません。これは惜しいことです。

——それはぜひとも実現していただきたいですね。

朴 名古屋市は現在ロサンゼルスや南京、シドニーなど6都市と提携しています。名古屋市には市議会に日韓議員連盟がありますから、こうした団体とも協力して姉妹提携あるいは友好提携を実現したいですね。互いによく似た条件——例えば、人口規模、都市としての産業的特色、港湾の有無といった要素がすべて類似していればよいのですが、なかなかそれは難しい。名古屋には大きな港があり、港と言えば韓国では釜山、インチョンという都市なのですが、この2都市はすでに世界各国の港湾都市との連携がいっぱいあり難しい。実現までに試行錯誤はあって当然です。人口、規模、地勢など合うところがないかと探してみないといけません。私案ですが、地理的にみると名古屋は本州の真ん中にありますね、人口規模なども勘案すると韓国の真ん中にある大田広域市（テジョン＝※注2）がよいと思いますが、もちろん、双方の希望をも聞いてみないといけません。共通点を探すということが大事かなと思っています。

——日韓関係が冷え込んでいるこの時期にできると、より深い意義がありますね。今後のご活躍を楽しみにしております。

（※注1）日韓スポーツ交流・成人交歓交流 日韓の30～70歳のスポーツ愛好者が互いの国を訪問しあって両国で開催される大会などに参加することにより友好・親善を図っている。日本側の受け入れとして2011年度までは、全国スポーツ・レクリエーション祭だったが、2012年度からは「日本スポーツマスターズ」に参加してもらう、よりハイレベルな競技となった。

（※注2）大田広域市 韓国で5番目の都市。総人口は153万人。西には名山として知られる鷄龍山がそびえ、近郊には古来より知られる儒城温泉がある。この儒城地区にハイテク団地が開発され研究学術都市として発展。1993年に国際博覧会が開かれた。